

	名古屋大学農学部 同窓会報	発行所 名古屋大学農学部同窓会 名古屋市千種区不老町 http://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~dosokai/
	<h1>セコイア通信</h1>	編集人 佐藤 豊 発行人 福田 勝洋 印刷所 株式会社 クイックス

近 況

名古屋大学農学部同窓会名誉会長 山本 進一
(農学部長・大学院生命農学研究科長)



◆卒業・修了を迎えられた皆様へ

名古屋大学農学部・大学院生命農学研究科を卒業、修了された皆様方に、門出をお祝い申し上げますとともに、農学部同窓会への加入を心から歓迎いたします。同窓会に加入されることによって、国内外の様々な社会、産業、機関などで活躍されておられる先輩諸氏との交流や連携あるいは情報交換、そして母校の教職員・学生との相互支援と親睦をより一層深めることができます。社会へ出て何か困った時、同窓生や同窓会は皆様方にとって心から信頼できる相談相手でもあります。「東山」の思い出とともに、この同窓会の輪をますます広げていただきたいと思います。願っております。

従来、名古屋大学には大学全体としての同窓会がありませんでしたが、昨年、各学部同窓会を結集し10万人規模の全学同窓会が、豊田章一郎トヨタ自動車名誉会長を会長に設立され、活発な活動が開始されています。名称は名古屋大学全学同窓会でNUALと略称しております。全学同窓会の設立を機に、名古屋大学とその同窓生そして広く社会との連携・交流が力強く推進されることと信じております。御入会でない方々は是非、御入会いただきたいと思います(<http://www.nual.nagoya-u.ac.jp>)。

◆同窓会会員の皆様へ

名古屋大学農学部同窓会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか？ 各界で御活躍の事と拝察し、心からお慶び申し上げます。私は、平成14年4月1日から、農学部長・生命農学研究科長を拝命させていただいております。平成8年に岡山大学から名古屋大学に転任してまいりましたので、御存知でない会員の方々も多くおられることと思いますが、今後ともどうかよろしく御願いいたします(専門は森林生態学です。E-mail: siyamamo@agr.nagoya-u.ac.jp)。

平成14年(度)は、当農学部・生命農学研究科にとって記念すべき特別な年となりました。6月には名古屋大学のアカデミックコンソーシアムのサテライトシンポジウム(AC21)を開催し成功裏に終えた事、21世紀COEプログラムに農学系では唯一採択された事(水

野 猛教授がリーダー)、約15年ぶりに文部科学省視学委員の視察があり好評であった事で、これらはいずれも当農学部・生命農学研究科の教育・研究活動がトップレベルであることを示すと同時に、教職員が一体となって高度な教育研究活動を遂行していることを示しております。このことは、自己評価実施委員会によって本年度にまとめられた名古屋大学大学院生命農学研究科・農学部年報「農学のフロントランナー活動1998~2001」でも確かめることができます。また、主な受賞関係では、大澤俊彦教授が日本農芸化学会賞を受賞されています。農学部・生命農学研究科の現況については是非、ホームページを御覧下さい(<http://www.agr.nagoya-u.ac.jp>)。本ホームページは情報処理委員会による自作の力作で学内外で大変評判の良いホームページです。

この3月末をもって、分子細胞機構学講座の塚越規弘教授、応用生命化学講座の牧野志雄教授、応用遺伝・生理学講座の武居幸子教授、分子情報制御講座の小川晃男教授が定年退官を迎えられます。この4名の先生方には思い出深い会員の皆様も多いことと存じます。さる2月5日には定年退官記念講演会を開催し、先生方の教育研究の足跡と御活躍、そしてそれを通じた人々との交流の自伝を感銘深く拝聴させていただくことができました。今後とも、当農学部・生命農学研究科の発展にお力添えいただければと願っております。

さて、昨年10月より齋藤哲夫、並木満夫両先生の音頭で農学部旧教職員を中心にした農学部談話会が春夏秋冬各1回のペースでグリーンサロンで開催され、現役との交流も始めております。各会、簡単な飲食とともに話題提供をいただき、親交を暖めております。第3回は今年4月、第4回は7月の予定です。

最後になりましたが、農学部同窓会の皆様方の益々のご活躍とご健勝を祈念申し上げ、本年度の同窓会総会には多数の会員の皆様方の参加を御願いたします。農学部創立50周年に記念植樹したヒトツバタゴ(なんじゃもんじゃの木)も見事に美しい花を咲かせております。

同窓会の活性化に向けて

同窓会会長 福田勝洋



今春、名古屋大学農学部・大学院生命農学研究科から、178名の学士、157名の修士、27名の博士を送り出すこととなります。卒業、修了される皆様にお祝いを申し上げますとともに今後のご発展をおいのりします。また、卒業、修了後は同窓生となりますが、同窓会へのご加入、ご協力をお願いします。

名古屋大学農学部は1955年に第1回卒業生21名を出していますが、翌年の第2回の卒業生27名を送り出した1956年3月に農学部同窓会はスタートしました。同窓会会員の親睦連絡をはかり母校発展に寄与することを趣旨として始まってあります。その後47年を経て同窓生は6千数百名になりました。この間、農学部のために色々な面からご尽力いただきましたが、特に、農学部創立50周年の折に同窓会が中心となって行いました募金には農学部同窓生、農学部関連教職員の方々から多大なるご厚志を頂きありがとうございました。

47年という長い年月の間に同窓会の機構、事業もマンネリ化してきたことも否定できません。こうした状況を打破するために同窓会では新たな試みを行いつつあります。同窓会の愛称もその一つで、公募により“セコイア会”が農学部同窓会の愛称となりました。セコイアにつきましては、昨年度の会報まで3度にわたって掲載されました“記念樹は今(1,2,3)”をご覧ください。また、名大祭期間中に開催しております同窓会総会、講演会にあわせて、同期会、クラス会の開催を呼びかけ、そのお手伝いを同窓会で出来るようにすすめています。今回はその試みとして、同窓会懇親会を

参加しやすいものにし、その後同期あるいは同研究室での懇親の場に移っていただくとう企図しております。

卒業後、10年、20年、30年など区切りの年に旧交を暖めて頂こうと呼びかけています。ホームページを通じて情報を流すようにしておりますので、同窓生への連絡や、同期会の開催案内などにもご利用いただけます。事業や生活、特に海外での生活などに同窓会からの情報を有効に利用して頂けるようにしていきたいと思っています。

ご存知のように、平成16年4月から国立大学は独立行政法人化する予定で、大学も自由競争の時代となり、農学部同窓会の趣旨であった母校の発展に寄与することが真に求められる時代となります。同窓生の皆様のご活躍とご支援が、農学部・生命農学研究科での教育・研究の成果や評価となり、それがまた同窓生の皆様に色々な形でお返しできるならこれにまさるものはありません。同窓会の活性化に向け、同窓生の皆様にさらに貢献できるよう努力していく所存です。より密接に同窓生の方と同窓会が情報を交換できるシステムを作っていく予定ですので、色々ご意見など頂けますようお願いする次第です。

農学部同窓会事務局より「全学同窓会設立のお知らせと寄付のお願い」

全学同窓会設立の主旨とその寄付に関する詳しいパンフレットを同封いたしました。全学同窓会は「名古屋大学の全同窓生を橋渡しとして社会と大学をつなぐ大きな役割」を担い、農学部同窓会はこれまで通り「農学部同窓生に密着した活動」を中心に据え、

両者は独立しながらも協調して活動を行ってまいります。農学部同窓会会員の皆様には、農学部同窓会と共に全学同窓会への暖かいご支援とご寄付をお願い申し上げます。

平成14年度名古屋大学農学部同窓会 総会、講演会、懇親会のご案内

同窓会が変わります!

みなさん同窓会の総会、講演会、懇親会に参加されたことがありますか? 何となく出にくい、知っている人がいない……そんな声が多く聞かれます。そこで、参加しやすく親しみの持てる会を目指して、次回から懇親会の形体を大きく変更することにしました。みなさま是非のぞきにきて下さい。

こんな人が参加します! 山本研究科長、同窓会役員(別項目参照)、その他の現役教官、実験実習担当の技官の方などが参加予定です。詳しい参加予定者はホームページに掲載しています(随時更新します)。

懇親会をカジュアルに、会費は1,000円! 堅苦しくて参加しにくいとの声に responding、気軽に参加できるスタイルにしました。学科や卒業年度の枠を超えて懐かしい人たちと語り合いませんか。

二次会企画! 懇親会の後に研究室の同窓会や学科の同期会を企画しませんか。同窓会の開催をうっかり忘れていた幹事さん、この機会に同窓会を開いてはいかがでしょう。企画内容は同窓会のホームページに掲載しますので、同窓会までご連絡下さい。同窓会役員からも卒業〇十周年などの企画を提案中です。ホームページを是非ご覧下さい。

●期 日 6月7日(土) *名大祭期間中

●総 会

時間: 午後1時~2時

場所: 名古屋大学農学部 第3講義室

●講演会

前愛知県農業総合試験場長 浅野峯男氏(昭和40年農学科卒)

「愛知県農業の発展のために — 地方試験研究機関の役割 —」

時間: 午後2時~3時

場所: 名古屋大学農学部 第3講義室

●懇親会

時間: 午後3時~5時

場所: 名古屋大学シンポジオン内 “ユニバーサルクラブ”

会費: 1,000円

定年を迎えて

私は同窓会なるものに興味がない。しかし、大学時代の同級生の集まり(クラス会、これが本来の同窓会ではないかと思う)には参加している。学部または大学単位の“同窓会”は名古屋大学に30年以上といった長期間おられた人たちの為のものであるように思われる。このように長い年月出身大学で遇される方々の多いのには驚かされるが、これは名大特有の現象では無いであろう。日本は長期間同じ職場にいる事が推奨される社会である。この事は退職金の計算式や、名誉教授の称号も在籍期間が基準であって実質的には業績は無関係である事からも明らかである。米国では職場の

小川 晃 男

移動、特に若い人たちの、が頻繁である。それが彼等に研究者としてのいろいろな経験を積ませ、研究の活性化につながっている。私は9年前に理化学研究所から名大に移って来た。名大は良い研究環境を提供してくれた。外部から転入した研究者に対する嫌がらせも無く、自由に研究をやらせてくれた。私は名大のこのような環境が国際的に高く評価される多くの研究を生み出していると思う。

最近、年金の支給開始年令の引き上げとの関連で定



年延長についてしばしば議論されている。年金は定年問題の重要な側面であるが、研究者として活躍するには定年が何歳であるべきかがより重要であると思われる。これは個人差が大きい為、難しい問題であるが、日本人の平均年齢は世界一高いと言われているが、アクティブな老人の数はアメリカ人に比べてはるかに少ないそうである。外国には70歳を過ぎても活発に研究

を続けている教授が多い。これを見習って私も定年をゴールではなく通過点にしたいと思っている。しかし、定年教授にとって国内で良い研究の場を得られる機会は少ない。私は中国に新しい研究の場を得る準備をしており、さらに米国等でも研究を続けたいと思っている。定年によってそのような機会を与えられた事を感謝している。



多くの人々に支えられて

武居 幸子



同窓会の皆様はじめまして。私の農学部および生命農学研究科における在籍期間は5年と短く、この3月で定年になります。生命農学研究科では、応用分子生命科学専攻応用遺伝・生理学講座を担当してきました。研究テーマは種々の動物の腸絨毛膜の二糖類水解酵素についてです。

の4年制化にともなって、農学部および生命農学研究科に異動してきました。ここでは、腸絨毛膜の二糖類水解酵素についての研究をおこなってきましたが、5年間にこの3月の引越しを加えると、3回の引越しで、結構大変でした。いつも引越しばかりしているようでしたが、その合間をぬってどうにか一仕事まわることができました。これも、多くの人々の支えがあったからこそと感謝しております。人にはそれぞれ個性があり、考え方もちがっていますので、多くの人々に接し、学ぶことが多々ありました。

私の研究生生活の始まりは、大阪大学大学院理学研究科でした。大村恒雄先生の指導のもと肝臓ミクロソームの電子伝達系の研究で博士号を授与されました。その後、1年半の阪大蛋白研奨励研究生を経て、名大理学部の助手に採用されました。

大学の法人化にともなって、これまでとは違ったいろいろな問題が生じる可能性があります。農学部の皆様協力し合って解決していくことと信じております。農学部及び生命農学研究科の今後の益々の御発展をお祈りいたします。

名大理学部では、カイコの電子伝達系と休眠に関して研究をおこなってきました。この間、あちこちの国際学会に参加したり、招待されたりして、女性特有の感覚かもしれませんが、昇格できなくても実験さえできればと考えて、いつのまにか16年間をすごしてしまいました。教授が定年のため、ちょうどポストの空きがあった名大医療短大部に異動し、その後、同短大部



大いなる変貌を期待して

塚 越 規 弘



名古屋大学助教授の辞令を受け取ってから25年の歳月が経ってしまいました。この間大学院重点化が行われ、昨年は全国に先駆けてCOEが認められ、また、平成16年度から独立行政法人化が予定されている。このような激動の時代を巧みに乗り切り、生命農学研究科・農学部が大きな変貌を遂げることを切望しております。

でも記憶しております。ペーパータオルなどは日本ではほとんど使用されておりましたが、使い捨ての日用品が既に溢れていました。その後、1972年にはスイスのパーゼルに新しくできたBiozentrum研究所へ移り、アメリカとヨーロッパを同時代に経験できたことはかけがいのない経験となっております。また、何も考えずにやりたい研究に6年半も没頭できたことは私にとって大変幸せな時代でした。

1969年大学院を修了後、シカゴ大学そしてUCLAの2大学でポストドクとして研究生生活を送りましたが、研究に関連した機器の豊富さに圧倒されたことは勿論のこととして、紙の使用量の多さに驚かれたことを今

私は生体膜の構造と機能について、特に脂質の面が

ら研究してきました。アメリカでは英語に不自由しながらも、恵まれた研究環境を最大限に生かそうと若さに任せて懸命に研究しておりました。brominated fatty acid を大腸菌に取り込ませると細胞膜の比重が重くなり、他の脂脂肪酸を取り込んだ膜と分離できる membrane density label 法を確立し、membrane assembly の研究に熱中しておりました。また、パーゼルではさらに単純なウイルスの系を利用して膜構成成分の詳細なアセンブリー機構について研究することができました。Biozentrum 研究所はアメリカをはじめヨーロッパ諸国から研究者や学生が多数来ており、とても国際的な雰囲気でした。英語が母国語でない人が多いので、相手の意見を辛抱強く聞いたり、理解しようと努力することはアメリカにいた時と大分違っておりました。

シカゴ、ロスアンジェルス、パーゼル、名古屋と色々なテーマで研究してきましたが、研究者としての最初

の部分で恵まれた国際的な環境で研究できたことはその後の研究の進め方に大きな影響を及ぼしました。名古屋大学での研究では1989年に発表した論文が Critical となり、それ以来我が国の発酵工業の基盤となった麹菌（国菌と呼ぶ人もあります）を研究対象として、糖質関連酵素遺伝子群の発現制御系について海外の研究者と共に研究を展開できたことに満足しております。

1999から2年間留学生センター長を務めたことも良い思い出となっております。幸運だったことに、留学生センターの永年の夢であった留学生センター棟が在任中に建設されたことは忘れられないことです。現在1,000名もの留学生が本学で学んでおり、その中核的な建物ができることは本学の国際交流の発展にも大いに貢献することと期待しております。

生命農学研究科・農学部が益々発展することを祈っています。



学 友

最近、昔の仲間、特に大学の学部時代の学友、と会う機会が多い。歳をとった証拠であろうかと思う。

学友はいい。昔、同じ年またはそれに近いのがいい。お互いの中にこの歳までやってきたことに対する敬意がある。が、遠慮がいらぬのがいい。多人数で会うときは昔の話になることが多い。時に「あの先生がいま生きておられたら、なんと云われるだろうか」という話になる。我々に共通の恩師がいてくれたことは実に幸せであった。人生を語ってくれた師をもったことは我々共通の宝であった。2・3人で会うときは、むしろ個人的な話になることの方が多い。しみじみ飲む。ぼそぼそ語る。仕事のことで、普段の生活の話になる。結構、子供のことで悩んでいたことに話がいく。「自分もそうだったな」と思う。子供の人生、親にはどうしようもない部分が多い。「親はなくても子は育つ」とはよく云ったものだ。今、その息子・娘達に意見される。お互い、それも語り合う。彼等の意見、「なるほど」と思う。

同じ学友が30・40代の時はこうはいかなかった。仕

牧野 志 雄



事の話が多かった。自分も含め、「俺が、おれが」が言葉の端々に出た。それはそれで一生懸命だったことの証と思う。それが無くなった。歳をとることの楽しさか。

「昔、兄とよく木に登って食べてましたね」と毎年、そのサクランボを送ってくれる友の妹さんがいる。彼が通って十年が過ぎた。還暦に際して、ある友はサミュエル・ウルマンの「八十歳の歳月の高みにて」からの言葉を贈ってくれた。ある友は小生のこの退官に際し、句を贈ってくれた。

降る雪や 青春も白秋もある 我等かな 浩之

ありがたきは友かな。

(農学部同窓会報へ 平成15年2月20日記)

■退官技官

今年度は2名の技術部職員の方が退官されます。安藤正孝さんは附属施設への送迎バスの運転手として、土谷敏さんは山地畜産実験実習施設の技官として、お世話になった方も多と思います。長い間お疲れさまでした。

卒業生の言葉

卒業を迎えて

資源生物環境学科水士保全学研究分野 品川 哲郎

大学生活が終わりをつけようとしている今、振り返るとたくさんのことを思い出します。群馬から名古屋にきた私は周囲の友達の性格が故郷の仲間とは異なり、なかなか大学になじめず煮え切らない日々を送っていました。1年の夏から塾のアルバイトを始め、責任をもって働くことの楽しさを知り、また相手に喜ばれることの幸せを感じ、充実した日々を過ごすようになりました。そして、社会にでてからも困難をのりこえていけるであろう自信をつけることができました。同時にそこで様々な個性と輝きをもつ仲間、先輩、生徒と出会うことができ本当に幸せでした。

3年になるとようやく専門に近い勉強ができるようになりました。私が在籍した森林コースは、実習内容も興味深いものばかりでしたが、なにより魅力的な友達と充実した時間を過ごせたことがよい思い出です。

研究生生活はまだ始まったばかりで悪戦苦闘の毎日ですが、来年度から大学院に進むので長い目で研究というものを考え、納得できる成果を出せればと考えています。

大学4年間を通して、愉快的仲間と大好きなスキーとスノーボードができたことをうれしく思っています。

最後になりますが、私をいつもあたたかく見守ってくれた家族に心から感謝します。

*

貴重な多くの出会いをありがとう

応用生物科学科微生物学研究分野 伊藤 照悟

なぜかあみだくじで当選し光栄なことにこのセコイア通信に掲載させていただくことになってしまいました。今私は実験中で遺心機を回している最中。手のあいた時間にこの原稿を書いています。

大学生活一番の宝となったのはずばらしい個性を持った友達がたくさんできたことではないでしょうか？ 私たちの学年は例年よりもかなり騒がしい学年だったようです。確かに考えてみればイベント好きで何かにつけて打ち上げ！ 飲み会だ！ と名古屋の街を騒がせていたような。しかしメリハリもあってテスト前の根性入れた勉強は図書館、友達の家、学祭1・2年実行委員の小屋、ガスト、セミナー室と様々な場所で繰り広げられ見事に単位を勝ち取ることができました。(当然ですが…) そしてKさんのしきる学生実験で培ったチームワークと要領の良さは必ずや今後の人生に活かされるでしょう。

研究室に配属されてからはほとんどが実験の毎日で

したが4年生同士のつながりは衰えることもなく、また新しい環境で素晴らしい先輩方とも出会い、研究室の先生方にもアドバイスをを受け勇気付けられたとともに今後の人生の参考とすることができました。この4年間で作りあげられた友人、知人の輪は将来の支えになることは間違いありません。そして今の私があるのは22年間支えてきてくださった数多くの方々のおかげであるとあらためて感じています。

そろそろ遠心の時間も終わる頃なので実験に戻らなければなりません。卒業した後も私は生活が変わるわけでもなく大学院に進むわけですが、これからの2年間もさらに有意義なものにしたいと思っています。

*

大学での生活を振り返って

応用分子生命科学専攻動物生殖制御学研究室 田中 晃

私の大学での六年間は、多くの人に出会い支えられ、その中から多くのことを学んだとても有意義な毎日でした。特にそれまでの生活とは異なり、大学入学を境に「研究においても毎日の生活においても、自分の頭で考え自分の責任で行動をとらなくてはならない」という大人としての生き方への変更を強いられたときに、目標とできる先生や先輩方に多く恵まれたことはとても大きな支えとなりました。大学入学まで、最後の最後で妥協をしがちだった自分にとって、そうした先生や先輩方の研究に対する妥協を許さない真摯な態度や飽くまで限界を定めないという考え方はとても刺激となりましたし、この先の自分の生活においても常に目指していきたいと思う目標となりました。

また、未だ大人への成長過程にある自分にとって友人や家族の存在も大きな支えとなりました。友人とは同じ目標に向かってお互いに鼓舞しあったり、時には幼稚な遊びをしてバカ騒ぎをしたり、かと思うと意見の相違から本気の喧嘩に発展したり、別の生き方を求めて大学をやめていく仲間がいたり、とにかく毎日が刺激に満ちたものであったし、目標とする将来像を構築していくうえでとても大きな助けともなりました。家族にはいろいろとわがままや悩みなどを聞いてもらい、その度に叱咤激励を受け、とにかく様々な場面で精神的に強く支えられました。

この四月から私は実際に社会に出て本当の意味で「自分の責任で行動をする」ことが求められるようになるわけですが、大学生活で身につけた力を基本に据えて、目標とする将来像に少しでも早く到達できるよう努力していきたいと思えます。

農学部同窓会の愛称が決まりました

これまで募集を続けてまいりました同窓会とその会報の愛称が、それぞれ「セコイア会」と「セコイア通信」に決定しました。この「セコイア」の名は農学部にある記念樹「メタセコイア」に由来しています。実際には「セコイア」と「メタセコイア」は別種ですが、愛称として呼びやすい「セコイア」を採用しました。この愛称を応募されたのは、前同窓会長でもある作物科学研究分野の異二郎教授と平成4年食品工業化学科卒業の中島明美さんのお二方で、愛称決定に際して以下の寄稿をいただきました。

*記念樹については、同窓会報に掲載されています「記念樹は今(その1~3)」をご覧ください。その内容は、同窓会ホームページ (<http://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~dosokai/>) でもご覧になれます。

記念樹は今(その4)

(前同窓会長) 異 二郎

下の道路から農学部玄関に至る階段を上りきった正面の空間にソテツが植えられており、その脇の石碑に農学部同窓会創立十周年記念と読めます。どうやらこのソテツがメタセコイアに次いで2番目に古い記念樹のようです。同窓会創立十周年が昭和41年に相当しますから、おそらく農学部の東山移転と同時に植樹されたのでしょう。植えられた頃から40年近くを経て、ヤマモモやタイサンボクなどの常緑樹に取り囲まれ、その陰に隠れて見落とすようになってしまいました。しかし冬になるとコモに巻かれた姿でその存在が浮かび上がります。ソテツが植わっている空間は事務棟と講義棟の渡り廊下に面し、斜めに横切る細い通路もあって学生の往来が激しい場所です。また来客が急な階段を登りきって最初に目にする眺望の良い場所でもあります。このように農学部玄関周辺のなかでソテツ庭はいわば要衝を占めており、記念樹としては申し分のない場所を得たということです。ところがこの庭は十分活かされているようには見えません。木が込み合いすぎたために庭を巡ることができなくなり、また外観も魅力に乏しくなったためでしょう。みんな庭の存在に気づかずに通り過ぎます。記念樹を中心にこの空間をアメニティー

あふれる小ガーデンとして整備しなおし、皆に一層愛される存在として復活させることを提案します。

さて、懸案であった農学部同窓会の愛称は「セコイア会」となりました。メタセコイアとセコイアは異なるという植物学的な観点からの重要な指摘がありました。いうまでもなく「セコイア会」の愛称は記念樹のメタセコイアが発想の原点ですが、それを昇華した、学名とは別物のいわば「SEKOIA」であることと理解していただき、未永くかわいがっていただきますようお願いいたします。

なお、私の旧友でツリークライミング活動家・コラムニストのジョン・ギヤスライト氏によりますと、静岡県のとある河の中流に50年生程度の太いセコイア(常緑)が10数本生えている場所があるそうです。もちろん植えられたものです。セコイアの大木が日本に生育しているというのは珍しいことだと思われまふ。彼はこの大木に登りましたが、残念ながら詳しい種類についてはわからなかったそうです。なおジョン・ギヤスライト氏はこの4月から博士後期課程の社会人学生として生命農学研究科に入学の予定です。

平成4年食品工業化学科卒業
中島明美

私の提案した「セコイア会」という名前が同窓会の愛称に選ばれたということで、お礼がてら、この愛称の由来について報告させていただきます。

「同窓会を親しみあるものに！」とHPを整備したり愛称を募集されたり、努力されている役員の皆様のご活動に共感を覚えたことと、賞金につられて(笑)どんな名前がいいかなあと考えてみました。

私の高校にはポプラ並木があり、「ポプラ」と聞いただけでポプラ並木の情景と共に甘酸っぱい思いの高校

時代がよみがえってきます。仕事・家事・育児にアクセクしている現在と違って、学生時代はキラキラしていた時代だったなあとしばし現実を忘れて幸せ気分になることができます。

同窓会の皆様も、シンボルツリーの名前を聞いて大学時代に思いを馳せノスタルジックな気分になるといいかと思い、「メタセコイア」から名前を頂きました。(実は、メタセコイアがシンボルツリーであることを同窓会報を読んで初めて知りました。)

この愛称によって、同窓会がますます親しみ深いものになることを願っています。

平成14年度名古屋大学農学部学術交流基金採択課題のご報告

名古屋大学農学部創立50周年事業後援会の募金では、同窓会員の皆様に多大なご協力をいただきました。その募金の一部を持ちまして「名古屋大学農学部学術交流基金」が設立され、平成14年度に最初の研究助成が採択されました。ご寄付いただきました同窓会員の皆様へのお礼を兼ねまして、採択課題のご報告を申し上げます。

- 研究集会の助成 (1件)

大澤 俊彦 (食品機能化学研究分野 教授)
 課題: 名古屋大学国際フォーラムサテライトフォーラム「アジアにおける持続可能な農業システムの構築」の開催

- 学術研究の助成 (1件)

川崎 通夫 (資源植物環境学研究分野 助手)
 課題: ヤムイモ類塊茎 (担根体) の形態構築機構と器官進化に関する研究

- 海外派遣の助成 (2件)

島田 佳 (環境昆虫学研究分野 博士後期課程1年)
 課題: 「10th International Congress on the Chemistry of Crop Protection Basel 2002」でのポスター発表
 和田 文孝 (分子細胞制御学研究分野 博士前期課程2年)
 課題: 「第7回トランスグルタミナーゼ及びタンパク質架橋反応に関する国際会議」におけるポスター発表

同窓会寄付者リスト

本年度、農学部同窓会に対し以下の方々より寄付金をいただきました。ありがとうございました。

(敬称略)

野間 順一	京極 秀昭	山田 耕司
鈴木 寛	奥村 純市	新美 安信
巽 二郎		

人事異動 (平成14年1月~12月まで)

日付	内容	官 職	氏 名	備 考
平成14年				
2月1日	採用	助 教 授	佐 藤 豊	
3月31日	退職	教 授	吉 田 重 方	
3月31日	退職	教 授	今 井 忠 良	
3月31日	退職	教 授	奥 村 純 市	名古屋文理大学
3月31日	退職	教 授	佐々木 幸 子	㈱コンボン研究所
3月31日	退職	教 授	尾 里 建 二 郎	
3月31日	辞職	助 教 授	内 藤 順 平	帝京科学大学 教授
3月31日	辞職	助 手	魚 津 桜 子	
4月1日	併任	研究科長	山 本 進 一	
4月1日	併任	評 議 員	松 田 幹 二	
4月1日	併任	附属演習林長	柴 田 勲 二	
4月1日	併任	附属農場長	横 田 浩 二	
4月1日	併任	学科長(資源生物環境学科)	阪 部 一 三	
4月1日	転入	教 授	宗 宮 弘 明	三重大学生物資源学部 教授
4月1日	昇任	教 授	柳 沼 利 信	
4月1日	昇任	教 授	村 松 達 夫	
4月1日	昇任	教 授	北 野 英 己	
4月1日	昇任	教 授	若 松 佑 子	
4月1日	昇任	助 教 授	山 本 一 清	
4月1日	転入	助 教 授	藤 田 祐 一	大阪大学蛋白質研究所 助手
4月1日	昇任	助 教 授	松 林 嘉 一	
5月1日	昇任	教 授	森 仁 志	
6月1日	採用	助 手	田 中 和 明	
8月1日	転入	助 教 授	石 黒 澄 衛	京都大学理学研究科 助手
9月1日	採用	助 手	山 田 邦 夫	
9月30日	辞職	助 手	田 中 和 明	麻布大学獣医学部 講師
10月16日	昇任	助 教 授	村 井 篤 嗣	
11月1日	転出	助 手	永 野 幸 生	佐賀大学総合分析実験センター 助教授
11月1日	採用	助 手	橋 本 寿 史	
11月16日	昇任	助 教 授	池 田 素 子	
12月16日	昇任	助 教 授	大 森 保 成	

事務局だより

同窓会ホームページのご案内

同窓生のみなさん、同窓会のホームページをご存知でしょうか。1999年4月より現在までのアクセス数は3600程で、まだまだ多くの方にはご覧頂けていないようです。どのような情報を掲載すれば、同窓生のみなさんが楽しんでいただけるのか、試行錯誤を続けています。メインのコンテンツは同窓会報でお伝えしている内容ですが、定年退官記念講演などの情報も掲載しています。

また、昨年は昭和62年畜産学科卒業生のクラス会を開きたいとのメールを頂戴し、その案内をホームページに掲載させていただきました。今後はこのようなクラス会の告知などにホームページをご利用いただこうと考えています。また、同窓生のみなさんの住所情報の登録・変更がホームページから簡単にできるように、現在専用のページを作成中です。完成まではお手数ですが、これまで同様、メールにて住所変更をご連絡下さい。様式等はホームページにありますので、一度ご覧下さい。

同窓生のみなさんに楽しんでもらえる情報発信、情報交換の場となるようホームページをつくっていきます。ホームページに対するご意見、ご要望をお待ちいたしております。

■ ホームページ：<http://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~dosokai/>

■ メールアドレス：dosokai@agr.nagoya-u.ac.jp

平成13年度 事業報告

1) 総会の開催

平成13年4月28日名古屋大学農学部において開催した。

講演会、懇親会は、農学部50周年記念式典の日程に連動させて開催することとし、総会のみを開催した。

2) 農学部50周年記念事業への協力

上記事業の活動に引き続き協力を行った。

3) 卒業祝賀会の開催

平成14年3月25日授与式後に農学部談話室にて開催した。樽酒を飲み交わしながら盛会のうちに終了した。

4) 会報の発行

平成13年12月と平成14年3月の2回発行した。平成13年12月発行の会報は、農学50周年記念事業報告と芦田 淳先生を思ふ特別号として、発行した。

5) ホームページの作成と管理

同窓会員の情報交換を促進し、活動の状況を広く会員に知ってもらうことを目的に同窓会ホームページの充実をはかった。

6) 同窓会名簿の管理

名簿の充実と管理について改善に努めた。

7) 同窓会の愛称募集

同窓会愛称の「セコイア会」、会報愛称の「セコイア通信」を決定した。

行う。

総会終了後、池田 衡氏（丸石製菓中央研究所所長、1966年畜産卒）による講演「新薬開発における疾患モデル動物の役割」を開催する。

講演会終了後、名古屋大学グリーンサロン内「花の木」にて懇親会を開催予定。

2) 卒業祝賀会の開催

平成15年3月25日に農学部談話室にて卒業祝賀会を開催する。

3) 会報「セコイア通信」の発行

平成15年3月発行を基本とする。

4) ホームページの作成と管理

同窓会員の情報交換を促進し、活動の状況を広く会員に知ってもらうことを目的に同窓会ホームページの充実をはかる。

5) 同窓会名簿の管理

平成15年度の会委員録発行に向け、名簿の充実と管理について改善に努める。

○会員録発行について

平成10年度に会員録を発行しましたが、その5年後に当たる平成15年度に会員録を発行できるよう鋭意準備を進めて参りました。しかし掲載する会員個人情報につきましてはその正確な把握とともに慎重な配慮ある取扱いも求められるという最近の情勢となってきております。そのため同窓会役員会では個人情報調査及び管理を専門の会社に委託すべきかどうかを含め会員録発行体制を慎重に検討中です。会員諸兄姉のご助言をお寄せ頂ければ幸いです。

平成14年度 事業計画

1) 総会、講演会、懇親会の開催

平成14年6月8日名古屋大学農学部において総会を

名古屋大学農学部同窓会 平成13年度決算

【収入の部】

費用	金額	細目	金額	備考
会費等	¥ 8,286,000	永久会費	¥ 6,780,000	339名
		一般会費	¥ 1,115,000	223名
		寄付金	¥ 246,000	27名
		広告掲載費	¥ 75,000	5件
		会員録販売	¥ 70,000	14名
普通預金利子	¥ 31,331	担保定額満期普通預金	¥ 30,220	
前年度繰越金	¥ 7,442,025		¥ 1,111	
合計	¥ 15,759,356			

【支出の部】

費用	金額	細目	金額	備考
会報発行費	¥ 1,941,698			㈱クイックス
アルバイト代	¥ 421,582			
総会	¥ 20,000	総会支給交通費	¥ 20,000	
関東支部援助	¥ 200,630			
後納郵便利用料	¥ 41,660			
郵便振替手数料	¥ 53,380			
卒業祝賀会	¥ 92,000			
事務諸費用	¥ 125,000			50周年事業寄付分込
合計	¥ 2,895,950			

【残高】

費用	金額	細目	金額	備考
残高合計	¥ 12,863,406			

名古屋大学農学部同窓会 平成14年度予算

【収入の部】

費用	金額	細目	金額	備考
会費等	¥ 6,628,000	永久会費	¥ 6,000,000	300名
		一般会費	¥ 500,000	100名
		寄付金	¥ 73,000	7名
		広告掲載費	¥ 50,000	5件
		会員録販売	¥ 5,000	1名
普通預金利子	¥ 1,000			
前年度繰越金	¥ 12,863,406			
合計	¥ 19,492,406			

【支出の部】

費用	金額	細目	金額	備考	
会報発行費	¥ 2,000,000				
アルバイト代	¥ 1,140,270	昨年度分	¥ 535,270	2名	
		本年度分	¥ 600,000	1名	
		臨時雇い分	¥ 5,000	1名	
総会	¥ 295,060	講演料	¥ 30,000	1名	
		総会支給交通費	¥ 30,000	2名	東京・大阪
		役員報酬	¥ 132,000	11名	昨年度役員へ
		懇親会	¥ 103,060	14名	参加者による負担分有
後納郵便利用料	¥ 50,000				
郵便振替手数料	¥ 50,000				
全学同窓会支援	¥ 12,460	郵送費		89通	
セコイア通信命名者謝礼	¥ 50,000				
卒業祝賀会	¥ 100,000				
事務諸費用	¥ 200,000	文房具・郵送費		昨年度分込み	
合計	¥ 3,897,790				

【残高】

費用	金額	細目	金額	備考
残高合計	¥ 15,594,616			

平成14年度役員名簿

名誉会長	山本 進一 (研究科長)	会計	山藤 貴史 (微生物学)
会長	福田 勝洋 (動物形態情報学)		前田 真一 (植物分子生理学)
副会長	竹谷 裕之 (食糧生産管理学)	名簿	田中 隆文 (水土保持学)
	鈴木 国男	ホームページ	上野山賀久 (動物生殖制御学)
関東支部長	朱宮 正剛	会報	佐藤 豊 (内環境情報制御)
関西支部長	中井 昭彦	事務	立川美砂子 (動物遺伝制御学)
総務	白武 勝裕 (園芸科学)		服部 幸子 (生理活性物質化学)
	松下 泰幸 (森林化学)		

関東支部からのお知らせ

名古屋大学全学同窓会関東支部
「設立総会・記念講演会・祝賀会の開催」

名古屋大学では平成16年4月からの独立法人化に向けて鋭意準備が進められております。法人存続には特に大学と社会の連携が重要視され、産学官連携本部や社会連携推進室を設置して積極的に活動しております。その一環として昨年10月27日に名古屋大学全学同窓会が設立されました。全学同窓会は、大学と社会を結ぶ必須の組織として、名古屋大学の発展と社会への貢献を図るとともに、会員相互の交流、親睦等を目的とし、各部局同窓会との関係はゆるやかな連合組織として従来の同窓会活動には影響を与えません。

このたび、名古屋大学全学同窓会では関東地区に在住する卒業生や修了生、旧教官等相互の連携をより深めるための支部組織を立ち上げる気運が高まり、部局同窓会等の支援を得て関東支部設立の運びとなりました。つきましては、ご多忙のところ誠に恐縮ですが、農学部同窓会の皆様には部局を超えて卒業生等の連携を図り、今後、大学と緊密に連携して社会に一層の貢献を果たすための門出となる支部設立総会に是非ともご出席賜りますようお願い申し上げます。

記

▶日時 平成15年度3月26日(木) 18:30~20:30

▶場所 神田学士会館 2階

〒101-8459 東京都千代田区神田錦町3-28

TEL 03-3292-5933、FAX 03-3292-2779

▶会費 10,000円

設立総会 (18:30)

記念講演会 (19:00)

「最近の名古屋大学改革の主要ポイント」 名古屋大学総長 松尾 稔

祝賀会 (19:30)

*詳細は名古屋大学全学同窓会HPに掲載されておりますのでご覧ください。

<http://www.nual.nagoya-u.ac.jp>

バイオサイエンス分野のサポートで 奉仕する(株)カークです

取扱品

研究用試薬・工業薬品・体外診断用検査薬
理化学用分析機器・ディスプレイ製品 etc

カスタムメイドサービス

受託合成DNA・受託電子顕微鏡解析



株式会社カーク
Tel. 052-971-6533 Fax. 052-972-7295
Home page: <http://www.cahc.co.jp>
(旧社名:名古屋片山化学株式会社)

理化学器械・研究設備・光学機器・ガラス器具
主要取扱メーカー

久保田製作所	トミー精工
東京理化	タイテック
マリソル	日本エイト
佐久間製作所	岩城硝子
三洋メディカ	アトバンテック
三立科学	アト



株式会社みずほ理化

〒468-0066 名古屋市天白区元八事1丁目33番地
TEL 052-831-8800
FAX 052-834-4117

BIOの未来に夢と希望を! 機材と試薬のご用命は理科研へ

RIKAKEN CO., LTD.

理科研株式会社

本社/名古屋市守山区元郷二丁目107番地
〒463-8528 TEL(052)798-6151 FAX(052)798-6157
支店・営業所/東京・つくば・柏・神奈川・鶴見・静岡・岐阜・津・四日市

<http://www.rikaken.co.jp>

理化学器械・光学器械・分析器械・ガラス器具一般

特約代理店

オリンパス光学・三洋電機(株)
ヤマト科学(株)・東亜電機(株)
(株)佐久間・(株)岩城硝子

合資会社 木下理化

〒466-0035
名古屋昭和区松風町1丁目32番の3
TEL (052) 859-2132
FAX (052) 859-2136

農学部同窓会事務局では、広告の募集をしております。本会報の発行部数は、現在約6000部で、本学農学部関係者に配布されています。会社の広告、同期会の通知などにご利用下さい。

なお、費用は1ワク1万5千円です。
詳しくは、同窓会事務局まで。

和光純薬



和光純薬は世界を究める
未来を見つめて製造しています。

- 試薬
 - 核酸抽出試薬
 - タンパク抽出試薬
 - DNA抽出試薬
 - RNA抽出試薬
 - PCR増幅試薬
 - 電気泳動試薬
 - 薄層分析試薬
 - 放射線測定試薬
- 顕微鏡検査
 - 顕微鏡用試薬
 - 顕微鏡用試薬
 - 顕微鏡用試薬
 - 顕微鏡用試薬
- 化粧品
 - 化粧品用試薬
 - 化粧品用試薬
 - 化粧品用試薬
 - 化粧品用試薬

和光純薬工業株式会社

〒105-8505 東京都港区新橋2-1-1
TEL 03-3541-1111 FAX 03-3541-1112
和光純薬工業株式会社